

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890200011
法人名	有限会社 ウェルケアサービス
事業所名	ウェルえがお
所在地	愛媛県今治市恵美須町2丁目2番地1
自己評価作成日	平成 28年 5月 3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、地域に根差した事業所を目指しており、地域のボランティア団体の慰問公演や地方祭の宮出しで、お神輿に事業所の玄関先に立ち寄って貰う等、地域交流を積極的に行っている。  
また、毎年お花見や初詣、花火大会見物等の季節行事やしまなみ海道を通って吉海バラ公園の見物を行ったりと、利用者様が四季を感じられる様に支援している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 法人代表者が自治会長の役員をしており、法人として地域と付き合いがある。近くにある吹揚神社の祭り時には、神輿が事業所建物の玄関に来てくれる。運営推進会議に参加している自治会の方からの紹介で、ボランティアの方の訪問がある。
- 調理専門職員が昼・夕食を作っている。夜勤職員が次の日の献立を書いて居間に掲示している。茶碗や箸、湯飲みやカップは、それぞれ自分のものを使用している。調査訪問時には、シルバーカーに食器を乗せて下膳している利用者の様子が見られた。食材の話題や味付けについて話しながら、職員も同じものを一緒に食べていた。
- 昼食前に、居間でラジオ体操を行えるよう支援している。夏・冬場は、室内で歩行練習できるよう支援している。テーブル席ではリハビリのために、おしぼり巻きをしている方もいた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

ウェルえがお

(ユニット名)

なでしこ

記入者(管理者)

氏名

黒川 恭嗣

評価完了日

平成 28年 5月 3日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>理念をスタッフルーム及び各ユニットに掲示する事により、理念の意識付けを図るとともに理念を実践出来る様、努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>開設時に「利用者第一主義」と理念を作っており、居間に掲示している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>地域との交流は、地域の祭り等に積極的に参加し、交流を深めている。また、ボランティアの訪問も多く、演奏会や演劇等の公演がある。 気候や天候、利用者の状態にもよるが、近隣の公園等への散歩を行い、地域住民とふれあえる様、支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>法人代表者が自治会長の役員をしており、法人として地域と付き合いがある。近くにある吹揚神社の祭り時には、神輿が事業所建物の玄関に来てくれる。運営推進会議に参加している自治会の方からの紹介で、ボランティアの方の訪問がある。来年度、法人では、事業所に隣接してグループホームを新設する予定で、建物内には地域交流ルームを併設することになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>認知症の理解や関わり方についての相談や施設への見学等には随時対応している。また、外出行事や地域の祭り等の参加により、地域住民に認知症への理解を深めて貰える様、努めている。 他にも地域ケア会議への出席を行い、地域の代表者への説明を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議において、利用者の状況や事業所活動状況、今後の取り組みの報告を行い、市職員、民生委員、利用者家族等からの意見を頂き、サービスの質の向上に繋がる様、努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、自治会長や民生委員、家族等の参加があり、現在の入居状況や行事の報告を行っている。時には、課題解決の取り組みを報告することもある。事業所では、会議メンバーが固定化していることにマンネリ化を感じている。</p>	<p>会議を活かして、地域とのネットワーク作りに取り組んでほしい。又、利用者も参加できるような会議に工夫してほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的に入居相談や待機者数の報告等行っている。また、対応が難しいケースは、適宜相談し助言を頂ける様になっている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、地域の介護事業所等が集まる地域ケア会議等に参加している。市の担当者が運営推進会議に参加して、取り組みに労いの言葉等をくれる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束の防止には徹底して取り組んでおり、玄関及びユニットの出入り口は、日常的に開放している。但し、転落防止や利用者の安全にかかわる事に関しては、家族等に相談したうえで禁止対象行為にならない様に使用している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束については、日々のケアの場面を捉えてユニット主任が職員に説明をしている。出かけていこうとする利用者がいた際には、ユニット入口の戸に鍵をかけることもあるが、さらに、職員全員が身体拘束を行うことでの弊害について勉強できるように、研修の機会を作してほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  各ミーティング等において、利用者の様々な状態における対応を話し合いながら、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  制度概要や申し立て手続きに等に関する説明。専門機関や相談窓口の紹介が出来る体制を整えており、実際に活用した事例もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には、十分な説明を行い、納得頂いている。また、改定の際には家族会等における報告、または個別に連絡を取り、十分な理解・納得を得られる様、努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  利用者及び家族等の要望・意見・苦情等には、随時相談出来る体制を整えており、主任やスタッフを通じて把握している。また、意見箱の設置や家族会で事業所へのアンケートを取り、サービスに活かせる様、努めている。  (外部評価)  毎月、利用者の健康状態や状況を個別にまとめて家族に報告している。家族会時は、家族だけで話す時間を設けており、「職員の名前が分からない」という意見から、職員の顔写真をユニット入口に掲示している。誕生日月に行う誕生会は、該当する方の家族にも案内をしているが、参加には結びついていない。ユニット主任は家族と利用者の要望の差を感じており、「家族とコミュニケーションをもっと深めていきたい」と話していた。	家族会時のアンケートでは、意見があまり出ないようだが、今回の家族アンケートをもとに職員会や家族会で話し合い、サービスの質向上に向けた取り組みにつなげてほしい。家族にも認知症をさらに知ってもらえるよう、事業所からの情報発信にも工夫してはどうだろうか。



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	事業所のさらなるレベルアップに向けて、職員個々が目標を立てスキルアップできるような取り組みも期待される。
			合同ミーティング、各階ミーティングを定期的を開催し、スタッフの要望等で実現可能なものは実施している。また、スタッフが個別に相談に来る事もあり、その都度相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者は、毎日の日報で活動状況の把握や行事等の参加により管理者やスタッフの努力や工夫を把握する様、努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人外の研修への参加を行い、研修後は報告書やミーティング等において、スタッフ間での情報の共有を行うとともに知識の習得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			市のグループホーム交流会に参加し、交流を深めている。また、同交流会の研修に毎回参加している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用開始前の面談により、本人及び家族が困っている事、不安に思っている事、要望等によく耳を傾け、本人及び家族の不安の軽減、安心を得られる様、努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に家族から困っている事、不安に思っている事、「こうして欲しい」といった要望を傾聴し、家族の不安の軽減、安心感を得られる様、努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの利用を開始するにあたっては、他のサービス利用についても説明を行い、ホームを利用する場合でも、場合によっては仮入居期間を設け、本人及び家族の必要としている支援を見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が入居に至るまでに培われてきた生活習慣や個性の把握に努め、それらを活かす事で支えあう関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月の現況報告や家族会や行事等への参加により、家族にも利用者を支えている実感を持って貰いながら、よりよい関係を築ける様、努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出や自宅への外泊等、なじみの関係の継続に努めている。 また、いつでも面会出来る体制を整えており、面会者が訪問し易い様な雰囲気作りにも努めている。	
			(外部評価) 市内の綱敷天満神社や別宮神社に初詣に行ったり、花の名所に出かけている。家族から母の日にプレゼントが届いた時等は、電話でお礼が言えるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) グループホームの「共同生活」だからこそ可能な利用者同士が助け合う事により、生活の中での「役割」や「生きがい」へと繋がる様、共有スペースに人が集まる様、TVを置いたり、レクリエーションやリハビリ体操への参加により、コミュニケーションを取れる様、支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も相談援助を行っており、必要に応じて相談・支援が出来る様、努めている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々の生活リズムや嗜好の把握に努めるとともに日々のコミュニケーションにより、本人の要望等に耳を傾け、意向の把握に努め、本人が暮らしやすい様、努めている。 (外部評価) 家族会時、職員は家族と話しながら利用者の生活歴を知ることに取り組んでいる。七夕の短冊には「元気でいたい」「お金がほしい」等、それぞれの願いごとが書かれてあった。介護計画作成前には、センター方式のアセスメント様式を使用して利用者の情報をまとめている。	自分で希望を言えないような利用者についても、選んだり決めたりする場面を工夫する等して、本人主体の暮らしを支援してほしい。暮らし方の希望については、聞き取りに難しさもあるようだが、日々の中で探りながら情報を蓄積してはどうだろうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの物を持ち込んで貰ったり、日々のコミュニケーションの中で個々の生活ペース等を把握し、サービスに活かせる様、努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタル測定や食事の摂取量、排泄チェック等により、心身状態の把握し、状態に変化があれば、その都度対応している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			現状を説明したうえで、本人及び家族等との話し合いにより、意見や要望を踏まえたうえで、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画は、家族の来訪時に、要望を聞き、ユニットごとのミーティングで話し合い、計画作成担当者が作成している。又、支援内容の中で重要項目を目標に挙げ、毎日モニタリングを行っている。体重増加傾向にある利用者もいるようだが、日中の活動等を工夫してみてもうだろうか。楽しく活動できるような取り組みについて、家族と相談してみてもうだろうか。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個人記録等に個々の状態や言動を記入し、今後の課題の抽出やスタッフ間での情報の共有を図り、介護計画の見直しや日々のケアに活かせる様、努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			歯科受診や移動美容室等、本人及び家族等の相談・要望等に柔軟に対応出来る様、努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域のボランティアによる演奏会や地域行事への参加、移動美容室の利用等、地域資源の活用により、利用者一人ひとりの暮らしを支えられる様、支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用開始前に本人及び家族が希望している馴染みの主治医や医療機関を変更する事なく、受診出来る様、支援している。	
			(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医に家族や職員が付き添って支援している。かかりつけ医は往診がないため、事業所での看取り支援は行えない現状があるようだ。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師の資格を持っているスタッフに相談したり、協力医療機関の医師・看護師と相談しながら、日常の健康管理等の支援に努めている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、入院先への面会や連絡を密に取り、状況把握や早期退院に向けての指導を仰ぎ、実施している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) サービス利用開始時に重度化した場合の対応について、説明している。また、利用者及び家族の希望や係りつけ医の指示を仰ぎながら、他施設への転居も含め、出来る限りの支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 「医療行為が必要になれば退居になる」ことを入居時に説明している。昨年8月の家族会時、家族同士での話し合いの際には、「退居時の行き先は早めに見つけておいた方がよい」等とアドバイスする方もあったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			消防署の実施する救命講習への参加やAEDを導入、研修により急変や事故発生時の対応に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			定期的に避難訓練を実施している。また、地域協力者を確保し、非常災害時における地域との協力体制を築いている。	
			(外部評価)	
			3月と9月に火災を想定した避難訓練を行い、運営推進会議時に報告を行っている。さらに、夜間の火災や津波を想定した訓練についても取り組んでほしい。いざという時には、近所に住む3名の方が協力してくれるようになっているが、一緒に訓練を行う等して、具体的な協力体制を作ってほしい。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			一人ひとりの尊厳を守り、誇りやプライバシーを傷つけないような声掛けや対応を心掛けている。	
			(外部評価)	
			大相撲観戦が好きな利用者には、テレビ番組が終わってから食事ができるよう時間をずらして支援している。利用者への言葉かけや呼び方、対応については、職員同士でも気になるところがあるようだ。さらなるケアの質向上に向けて、職員が自分自身をチェックして、改善に取り組めるような仕組みを作ってはどうか。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			日々のケアやコミュニケーションの中から得た情報により、本人が自己決定出来る様、努めている。また、本人が何を望んでいるかを把握出来る様なケアや声掛けを心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 「自立支援」を基本とし、スタッフの都合による一律のルールやスケジュールでなく、本人が自己決定し、選択出来る様な生活を送れる様、努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室の利用や整容等、生活場面にあわせた、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様、本人と相談しながら支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) スタッフと一緒に食事の配膳や後片付け等、個々の有する力を活かしながら実施している。 また、季節の行事には特別な献立を考えたり、スタッフと一緒に餅作りやケーキ作りを行う事で、楽しみながら食事出来る様、努めている。	
			(外部評価) 調理専門職員が昼・夕食を作っている。夜勤職員が次の日の献立を書いて居間に掲示している。茶碗や箸、湯飲みやカップは、それぞれ自分のものを使用している。調査訪問時には、シルバーカーに食器を乗せて下膳している利用者の様子が見られた。食材の話題や味付けについて話しながら、職員も同じものを一緒に食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各チェックシートを活用して、日々の食事や水分の摂取量を把握し、個々の状態に応じて食事の形態も対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けを行い、個々の状態や力に応じた口腔ケアを実施し清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 各チェックシートを活用し、個々の排泄パターンを把握し、早めの声掛けを行う事で、排泄の失敗防止や排泄の自立に向けた支援を行っている。 (外部評価) 入居間もない方で夜間尿意や便意を感じて何度もトイレに行く方があり、本人も苦痛に思っていることから、医師と相談して薬を使用しながら支援していくことを考えていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 医師とも相談を行いながら便秘薬の服用または、体操や散歩等の運動、乳製品の活用や繊維質の多い食事等により便秘の予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの希望に沿った入浴が出来る様、努めている。 (外部評価) 2日に1回、午後からが入浴時間となっている。浴槽をまたげる方は湯船で温まれるよう支援しており、難しい方は、シャワー浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調等を考慮し、状況に応じて日中でも居室で休息出来る様、支援している。 また、不眠状態が続く利用者によっては、医師から処方されている眠前薬を服用する事で、安眠に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬書類を作成し、スタッフ間での情報の共有・把握に努めている。 また、服薬に変更があった場合には、情報の共有や家族への連絡、症状の変化等の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の有する力を活かした作業(新聞取り、食器拭き、洗濯物たたみ、掃除、裁縫等)を提供する事により、楽しみや役割を見出し、生きがいや喜びのある生活を送れる様、支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に応じて、近隣の公園への散歩等、外出支援に努めている。 また、外出行事の際には、家族等にも協力して貰いながら、四季を感じられる場所への外出支援に努めている。	
			(外部評価) 自立度の高い利用者が増えたこともあり、季節のよい時期には散歩ができるよう支援している。又、計画を立てて、買い物や外出に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 鍵付きのロッカーに保管し、個々の希望や力に応じて対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に応じて、電話支援等は日常的に支援している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 物品に家庭的な物を使用する事で、家庭的で居心地のよい雰囲気作りに努めるとともに季節に応じた花を生けたり、装飾を置き、季節感も同時に取り入れている。また、トイレや浴室等は大きな文字で明示する事で混乱を招かない様、工夫している。</p> <p>(外部評価) 昼食前に居間でラジオ体操を行えるよう支援している。夏・冬場は、室内で歩行練習できるよう支援している。テーブル席ではリハビリのために、おしぼり巻きをしている方もいた。お茶会の時には、あじさいを生けてお茶を楽しむ等しているが、普段も季節や時が分かるような空間作りに、工夫してはどうだろうか。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共有スペースには、ソファや椅子・畳コーナー等を設け、利用者一人ひとりが好きな場所でくつろげる様な空間作りをしている。また、気の合う人同士で過ごしたい場合には、他の利用者から少し離れた場所に座ったり、自身の居室に招いたりして過ごしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居時に本人及び家族とも相談しながらTVやタンス等、本人の使い慣れた家具や生活用品を使う事で、安心して居心地良い居室作りに努めている。</p> <p>(外部評価) テーブルやいすを置いている方や写真を飾っているところもあった。昼食後は居室で横になって過ごす時間を作っている。排泄用品の整理については、配慮が必要と感じるような居室があった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 手すりの設置や車椅子でも使用出来るトイレ等、一人ひとりの有する力を活かし、安全かつ自立した生活が送れる様、環境作りに努めている。</p>	